

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和六年七月句会（第一四六回）

兼題 「団扇」

開催日 令和六年七月二十七日

開催場所 生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 七名

（三点句）

人声の遠ざかりたる葭障子

玄鳥

（二点句）

奈良団扇天平模様が涼運ぶ

徹心

筆筒の筆と並びて古団扇

玄鳥

団扇絵や揺らす表裏に目も涼し

互酬

江戸風鈴重たき荷物軽くして

寿歩

（一点句）

踊り手の背に挿したる団扇かな

夢心

向日葵の一片横隊丈比べ

夢心

歳なりに頑張っている夏の宵

互酬

汗流し大川沈む夕日かな

夢心

納骨の読経青葉の風に乗る

夢心

しりじりと耳鳴りのごと蝉の声

玄鳥

（六点句）

●絵団扇の花々揺れて風やさし

小牧

選評：扇面に花々の絵が描いてある。団扇を使う度に扇面の花が揺れる。自ずから乱暴な使い方はせずにつくりにとした使い方になり、送られる風も優しい。使い手の優しさが窺える好句である。

（夢心記）

（四点句）

●阿波踊り団扇遣いのけざやかさ

徹心

選評：熱気と躍動感に溢れ、音楽も聞こえてくるほど臨場感のある良い句だと思います。「けざやかさ」の体言止めが、句を引締め、踊り手の動きをいっそう鮮やかに描き出します。語彙の豊かさやセンスの良さに感心しました。また、「遣い」に踊り手へのリスペクトを感じました。

（寿歩記）

●今日採るか明日にするかと悩む茄子 互酬

選評：茄子は夏を代表する野菜です。細い、丸い、長い、小さい等多種あります。それが食べ頃により味が異なります。収穫の時期がいかに難しいものか、良く表現されています。

（艸寛記）

●映えよりもシンプルが好きかき氷 小牧

選評：世の中は映え流行ですね。かき氷も見映え優先で、いろいろな食材をこれでもかというくらいに盛り付けて、食べにくいだけでなく、本来のスッキリした清涼感のある美味しさが失われているようです。作句者はそんな流行りものよりも、本来のシンプルなかき氷の方が良いし、好きだと素直に詠んでいる。

（徹心記）

（投句）

うちわ風優しく叩く孫の頬

艸寛

会場を埋めるは推しの団扇かな

寿歩

紹の着物三年振りの大歌舞伎

寿歩

鈴の音に和して愛でるや不忍の蓮

小牧

夏の海水泳授業は楽しけれ

艸寛

吾の家の団扇殆ど販促品

徹心

紫の花絵団扇の風来たり

玄鳥

温暖化憂ふ園児の七夕や

小牧

寛ぎは団扇片手にショータイム

夢心

初蟬や残る静寂温暖化

寿歩

吾の団扇裏も表も推しのフォト

徹心

草刈りは一畝が限度汗止まず

互酬

七夕や可憐夜に希う君

艸寛

『句会後記』

兼題である団扇が我が家には一枚もなく弱りました。街中ではモーター付きの携帯扇風機を持った人をよく見かけます。今月の句会も内容に関する雑談などで楽しい会となりました。

そんな中で、読者に意味が通じるか、説明や報告になっていないか、詩になっているかなど俳句の基本が確認されました。

（玄鳥記）